
電子操業日誌「PlantLogMeister」ダッシュボード機能を販売開始
- プラントデータの直感的分析を実現し、工場・プラントの予防保全強化に貢献 -

東芝三菱電機産業システム株式会社(以下、TMEIC)(社長:山脇 雅彦)は、電子操業日誌「PlantLogMeister(プラント・ログ・マイスター、以下PLM)」*1 のオプションパッケージとして、「PLM」に蓄積した情報を、グラフや集計表を用いてグラフィカルに表示し、各種情報を組み合わせた分析、活用ができる「ダッシュボード機能」を2021年9月から販売を開始しました。

工場・プラントの安全・安定操業を実現するには、プラントデータの異常値を早期に発見し、速やかに対策することが重要です。異常値の発見は、これまでベテラン運転員の経験に基づくノウハウに依存している場合が多く、これらの暗黙知的なノウハウを次世代の運転員に継承することが課題とされています。

工場・プラントの運転日誌デジタル化を支援する「PLM」は、ベテラン運転員の知識や経験をデジタル情報に変換し、共有・活用できる生産現場の業務改革ソリューションです。

今回リリースする「ダッシュボード機能」は、「PLM」に蓄積した操業情報のほか、外部のプロセス情報や設備管理データなど、プラント操業にかかわる各種情報を簡単な操作で関連付け、グラフや集計表としてグラフィカルに情報提供できます。

ベテラン運転員が日頃注視している情報をダッシュボードに効果的に配置しておくことで、KPI(Key Performance Indicator、重要評価指標)として活用することができ、安全・安定操業を支援します。

<ダッシュボード機能の特長>

1. 各種情報を集約して可視化し、トラブルの原因分析をサポート

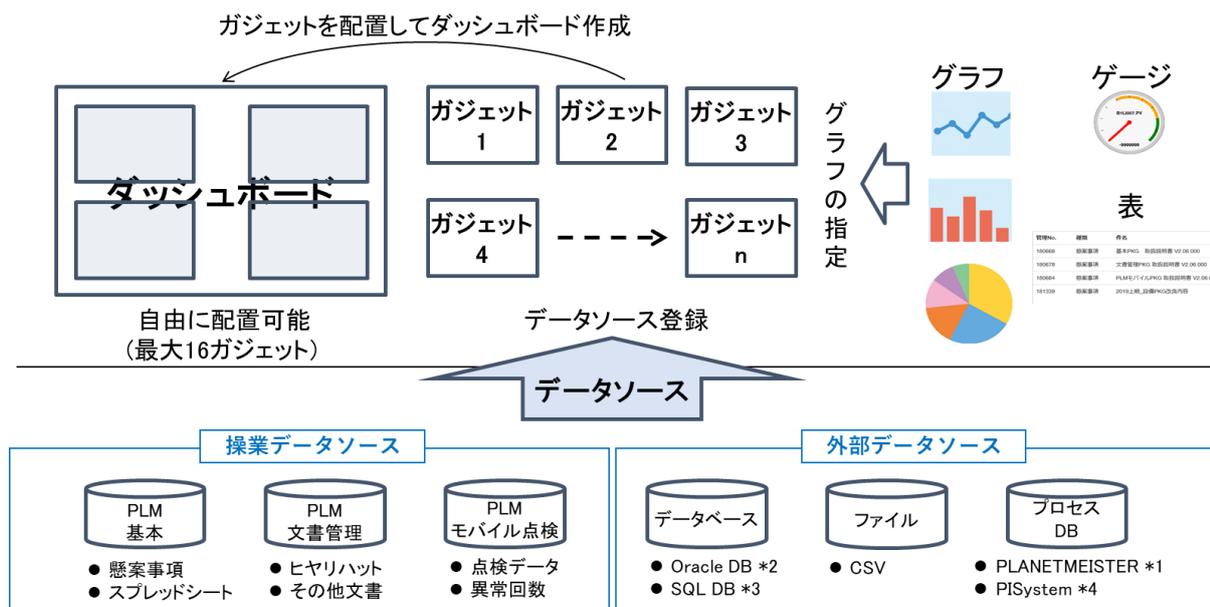
ダッシュボード機能では、申し送り情報、イベント情報、巡回点検結果、懸案事項、ヒヤリハットなどの操業データソースとプロセス情報などの外部データソースを組み合わせ使用することができます。トラブルの原因や処置、対応履歴などを記録できる懸案事項にプロセス情報などを関連付けることで、より詳細な分析・トラブルの早期原因究明へ役立てることができます。

2. グラフィカルな表示で、直感的な分析環境を提供

ダッシュボード上では、操業データソースや外部データソースをグラフや集計表の形式でまとめてグラフィカルに表示した項目(ガジェット)を配置できます。各種ガジェットの表示期間は同期しているため、関連付けて見たい情報をユーザの自由に配置することができます。さらに「ドリルダウン」「ドリルアップ」といったデータの多角的な分析が、ガジェットをクリックするだけで容易に行うことができます。

産業第一システム事業部 産業第一営業部長 北中 快昌 コメント:

「2011年に販売を開始したPLMは多くのお客様に採用頂いており、今般製造現場のニーズを踏まえ、更に有効活用いただけるオプションメニューを開発しました。設備予防保全に加え、トラブルの再発防止・原因究明などにも役立つものと考えています。今後も製造現場のDXによる安全・安定操業に貢献する製品・サービスの提供に努めてまいります。」



*1 「PlantLogMeister」「PLANETMEISTER」は東芝三菱電機産業システム株式会社の日本における商標です。

製品の詳細は以下を参照ください。

https://www.tmeic.co.jp/product/industries/process/solution/support_plantlog/

*2 「Oracle Database」は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

*3 「SQL Database」は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。

*4 「PISystem」は、OSI soft 社の登録商標です。

報道関係からのお問い合わせ先

東芝三菱電機産業システム株式会社 経営企画本部 ブランド企画グループ <https://www.tmeic.co.jp/>

〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン Tel: 03-3277-4319 Fax: 03-3277-4578

TMEIC(ティーマイク)は、社会を支える基盤である「ものづくり」の現場ニーズにお応えするために、社会の発展と美しい地球環境とを調和させる産業システムインテグレーターとして、「産業」「社会」「環境」の未来を常に見据えています。工場・プラントにおいて原動力となっている回転機、電力を変換・制御するパワーエレクトロニクス、そしてプラント全体を計画し実現するエンジニアリング、これらの技術をコアに、ものづくりと環境マネジメントに最先端の技術で貢献していきます。